

2020年度環境セミナー

●環境建築デザイン学科

- 構演者：プリド アルカス ヘスス アルベルト（東京大学大学総合教育研究センター大学院総合文化研究科・教養学部、特任講師）
- タイトル：エネルギー貧困の定義と建築デザインに与える影響
- 日時：12月23日（水）18：30～20：30
- 会場：B0 2階会議室

講演概要

エネルギー貧困という用語は「世帯において人々が生活する上で必要なエネルギーサービスを十分に享受できない状態である」ことを表現するために用いられる（Boardman, 2010. 訳は奥島、2017）。最近の研究によれば、エネルギー貧困は下記の三種類のアプローチで特徴付けられる：①世帯のエネルギー支出額 ②住宅の室内環境 ③住宅におけるエネルギー効率。

この発表は、チリにおけるエネルギー貧困に関する研究結果について議論するものである。データはチリの中南部のビオビオ州の低所得層の121名を対象として取られ、対象者の住宅における室内環境が計測された。結果から、冬場室内温度は13度程度にも拘わらず、その気温が低所得層には「快適」と評価されていた。つまり、エネルギー貧困世帯であるということが明らかになった。本研究の結果によると、「エネルギー貧困」の意識は世帯の社会経済的状況によって影響を受けることが理論付けられた。